

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム夢あかり	評価実施年月日	平成22年2月23日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月1日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>ホームが地域の一員として機能を有し、利用者が地域に馴染み生きがいを感じてその人らしく暮らしていくことを支援する事業独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念は入社時の研修及び毎日の申し送り時には職員全員で復唱し、理念に基づき日々のケアに取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居者、ご家族においては入居前のパンフレットより説明を行っており、ケアについても理念に基づいて行っていることをお伝えしている。地域の方々とはホームの行事にも参加して頂き、日々のふれあいの中で理解をして頂く機会を作っている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>隣近所の方々とはあいさつを交わしている、また気軽にホームに訪問もあり入居者と一緒にこちらから出かけ、庭を見せてもらいながら会話もしている。</p>		<p>近所の方々には育てた花を持って来てくれたり、取った山菜を届けてくれるなど交流は多い。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域の一員として町内会の総会やお祭りにも参加している。廃品回収や町内の清掃などのもお手伝いに参加している。</p>		<p>ホームの行事にも多くの方々に参加して下さる。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>ホームの行事の時には介護相談の機会を設け、相談出来る場所として地域の方々には理解していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価及び外部評価について意義を分かりやすく説明し、理解の上で全職員が取り組んでいる。改善点があれば具体的に検討し、改善策に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議ではホームの運営状況、行事、外部評価の取り組み、結果等を報告している。助言、要望、指導等があれば真摯に受け止め、話し合いを行い、サービス向上に生かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>毎月、入居者の状況はじめ行事、活動、苦情等についても報告している。サービス提供の上で不明な点及び問題点があれば、その都度、確認また相談を行った。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在は、入居者が成年後見制度を利用されており、運営者、管理者、CMは外部研修に参加しており、学ぶ機会を増やしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束虐待廃止委員会を設置し、毎月1回以上会議を開催し、現在行っているケア(言動、行動)が拘束、虐待につながるものがないか話し合い確認を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、運営者、管理者が同席し、契約締結を行い、分かりやすく説明し疑問があれば時間を十分に摂り説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活のなかで表情や状態の変化を読み取るようにしているが、ご家族にも協力を得て、ご本人の意見や意向を引き出していただき、対応に努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が来訪されるたび、また電話にて体調など近況報告を行っている。月1回はホームでの様子を手紙、広報紙にて報告しており、金銭管理においては出納帳を作成し送付して確認して頂いている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情、相談窓口の設置(重要事項説明書に記載)、第三者機関へ相談出来るように相談窓口をお伝えしている。意見箱の設置も行っているが、ご家族の来訪時、近況報告をしながら改善点や意見等がないか、普段の会話から引き出すように取り組んでいる。意見等があれば即座に内容を検討し対応している。		
s ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、会議を定期的開催し、職員の意見を聞く場を設けており、また緊急性があれば運営者を交え解決に取り組んでいる。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態に合わせて勤務時間の調整を行い、不都合が生じた時は、その都度、話し合いを行い対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	一年を通し離職は減り、入居者との馴染みの関係も出来、安定している。		利用者と馴染みの良い関係を今後も継続できるように配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社内外の研修を計画し本人の意向も確認しながら職員の経験年数に合った研修が受けられるようにスキルアップに繋げていく。研修内容を報告し、全員が情報の共有が出来るようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営者は道グループホーム協議会、後志ブロック・会長でもあることから他事業所の方々との交流も多くネットワーク作りも行っている、研修会や交流会に参加する機会も多くあり、職員だけではなく入居者の方々の交流も多く、楽しみにされている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>業務に負担、ストレスが無いように協力、工夫している。休憩室はテレビ・冷蔵庫も整備しており、職員が休憩を取りやすくしている。定期的に親睦の場を作り、気分転換を図れるようにしている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>認知症ケア専門士や介護福祉士、ケアマネジャーなどスキルアップが出来るように試験を受けることを推奨している。</p>	<p>職員がやる気の起こるような環境作り、外部の研修や資格修得に向けた支援を行っている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家庭や病院などに訪問した際、また来所時に本人の困っていることを会話の中で探しているようにしている。本人が緊張して話ができない時は、再度機会を設けて本人が安心して生活ができるように努めている。</p>	<p>面談や聞き取りの際は、困っていることはとは聞かず、会話の中から得るようにしている</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>来所時だけでなく、ご家族の都合のいい時間に何度も電話をしながら、本人のこと、困っていることを聞き、安心して入所できるように努めている。</p>	<p>ご家族が納得、安心できるまで会話する機会を設けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容により、医療では通院だけでなく、体調に応じて往診を依頼したり、専門医にかかっていなければ、かかりつけ医にするようにしている。ホーム内のサービスだけでなく、福祉用具の購入をしている。		往診を依頼し、専門医にかかるようにしている。福祉用具の専門員に確認してもらい購入している。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居者の普段の様子、ホームでの生活の様子を見てもらうため、家族だけでなく、本人にもホーム見学をしてもらっている。		本人、家族が話し合い納得した上で入居してもらっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者、職員と一緒に過ごす時間を大切に、入居者から調理方法や味付けを教わり、食事やおやつを楽しみながら過ごすように一緒に摂取している。		調理、食事、おやつ時間を共有している。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の希望に添うように家族と一緒に考えたり、本人の希望を家族に伝えている。		家族だけでなく、本人も含めて話し合いをしている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人に家族の希望や考え方を一方的に押し付けるのではなく、本人や家族の間に入って希望を調整するようにしている。		家族の都合に合わせて、話し合いの機会を設けている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に行っていた病院や美容室は、入居後も継続して利用できるようにしている。友人、知人が気軽に来所できる雰囲気作りをしている。		今まで、利用していた所はそのまま継続して利用している。曜日、時間に関係なく面会できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の居室への行き来、Dルームでの会話は多い。耳の遠い方やコミュニケーションの取りづらい方は、職員が間に入っている。レクでは入居者同士が協力できることを取り入れている。食事の後片付けは入居者で協力して行っている。		入居者と職員が誕生会やクリスマスツリーの飾り付けをしたり、畑で野菜を作ったり、雑草を抜いたりしている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご家族が訪問したり、こちらから連絡をとり、近況の報告、確認をしている。		運営推進委員としてホームのことに協力してもらったり、行事に参加してもらっている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者とコミュニケーションを取りながら、本人の希望をくみ取るように職員全員で務めている。家族が面会に来たときには、本人との会話の内容を伝えてもらっている。上手に伝えられない方は、職員間で話し合い確認している。		会話の中で、言葉だけでなく、表情や仕草からも読み取るように務めている。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者とコミュニケーションを取りながら、生活歴を把握するようにしている。また、本人が伝えたくないこと、忘れてることについては家族、親戚から聞いて把握するように努めている。		本人、家族、親戚だけでなく、以前利用していた事業所からも情報を得るようにしている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の希望する生活を援助するだけでなく、本人ができそうな能力、可能性を職員間で探し、把握するように努めている。		居室の掃除機掛けや拭き掃除など本人ができることを増やし、実行してもらっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族から希望を聞き、定期的にも必要に応じてカンファレンスを行い、入居者の状況を確認し、意見交換をしている。受診時や往診時に医師からも指示や助言をもらい介護計画に反映させている。		カンファレンスだけでなく、毎日の申し送りの中でも情報の交換、確認を職員間で行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	体調の急変、ADLが低下し、期間に関係なく介護計画の変更が必要な時は、家族に連絡して現状を確認してもらい、また、受診して医師の助言をもらって介護計画を本人の現状に合わせて作成しなおしている。		本人、家族と今後の方向性を話し合うだけでなく、医師からも助言をもらうようにしている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子が見えるように介護計画に即したチェックシートを作成し記入している。気付いたこと、行動、言動をその場で記入し、介護計画に反映できるようにしている。		チェックシートの内容は、本人に合うように個別にまた必要に応じて変更している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診の希望がある時、本人から訴えがなくても体調に変化がある時はすぐに対応し、受診している。理美容、買い物の希望もすぐに対応して介助の下外出している。		急な外出、買い物にも対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力の下、ホームの職員だけでなく地域の方にも参加してもらい火災、防災の訓練をし、指導、助言をもらっている。大きな行事では、地域の方に協力してもらい入居者が安心して参加できるように努めている。		火災訓練や大きな行事には民生委員の方にも参加してもらい、入居者のことを理解していただいている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	家族の希望や本人の希望、状況に合わせて福祉用具の杖、靴、車イスなどを専門員にみてもらい購入している。		福祉用具は、定期的に点検してもらい、本人に会っているか確認してもらっている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者についてご家族との関係や困難な事例などの相談をしている。		本人の権利擁護など判断が困難な時は相談している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	健康管理、服薬管理、食事管理、排泄援助を行い、受診、往診時に医師に伝え、状況を把握してもらい、助言を受けている。また、ご家族にも同席してもらい内容を確認してもらっている。		緊急時は、入院できる体制を整えている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	毎日の申し送りの中で、職員間で情報の交換、状況の確認を行い、定期的に専門医に受診、検査を受け、場合によっては電話で相談している。		症状が急に進行した時などは、診察予定を繰り上げ受診している。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員の確保はされていないが、健康状態は主治医に定期的に報告し、指示、助言をもらっている。		地域の看護師と連携をとれるようにしていきたい
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、必要な備品を準備し、家族との連絡を密にしている。医師、家族と話し合う機会を設け、入院中の状況を確認し、いつ退院しても受け入れ、状況に合わせたケアができる体制を整えている。		病院、家族と連絡を密にし、状況を把握し、職員にも伝えている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時から家族と話し合いをし、体調の急変、入退院時など状況が変わった際も話し合いを持ち、主治医とも連携を図り、方針を共有している。		本人や家族の希望を取り入れ、食事の形態を変えたり、福祉用具を活用している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	緊急時の医療との連携体制、糖尿病等の特定疾患を持っている方の緊急時のマニュアルを作成している。特変時には、主治医に連絡を取り、受診している。		低血糖時の対応マニュアルを作成し、連携体制を整えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族と話し合い使い慣れたもの、気に行っているものを用意してもらっている。居室の家具などの配置も今までに近いようにして、安心感があるようにしている。</p>		<p>話し合いをしっかりと持ち、また確認して使い慣れた物を用意してもらっている。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>大事な話がある時は、他入居者の目に触れないようにゲストルーム、居室を利用している。記録は、事務所の棚に保管し、職員以外は触れることができないようにしている。尊厳に配慮して入居者に接している。</p>		<p>記録や個人情報の管理を徹底し、言葉使いに注意している。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個人の理解力に合わせて、説明を短くしたり、本人のわかる言葉に置き換えて説明している。一つの提案だけでなく、複数の提案をして選択できるように心がけている。</p>		<p>選択の際は、服などは本人の前に置いて選んでもらっている。本人の理解できる言葉を職員間で確認しながら、理解できるように説明している。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者が話しがある時は、業務の手を止めて聞くようにしている。個人の時間を大切に、本人が思うように生活ができるようにしている。外出等では、希望がある時はできるだけ早く対応している。</p>		<p>レクなどは自由参加とし、強制しないで居室で過ごしたい方はそのまま過ごしてもらっている。急な外出、買い物の希望にもすぐに対応している。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利美容は、本人の希望する店や以前から利用している店に行くようにしている。</p>		<p>入居前から利用している所を入居後も継続している。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>定期的に入居者に食べたいものを聞いて、メニューに取り入れている。できる方には、野菜の皮むきや切るなどのことを一緒にしている。後片付けは、入居者が分担しておこなっている。</p>		<p>旬のものをメニューに取り入れ、春に山菜を提供したり、市場で魚を買ってきて新鮮なものを提供している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	コーヒーや紅茶、お茶など本人の好みに合わせて、また甘さなども本人の好みに合わせて提供している。おやつも各入居者の好みに合わせ提供している。		朝のモーニングコーヒーの提供や好きな時に飲み物やおやつを提供している。その方に合わせきざみやすりおろして提供している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の排泄パターンに合わせて、声をかけたり、トイレに誘導している。		食事の前後、夜間に時間を決めて声をかけている。今までの記録から個人の排泄パターンを把握している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2回は入浴してもらっている。拒否がある時は、無理に入れないようにしている。		本人の希望により、時間帯や順番を選んでもらっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中も本人の好きな時に休んでもらい、夜間眠れない時は温かい飲み物を提供したり、職員と落ち着くまで会話をするようにしている。		就寝時間は決まらず、本人の自由にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人の能力や趣味、得意なことを把握し、活かせるようにしている。調理、畑仕事など過去の生活歴から活かし行ってもらっている。		ホームの中だけでなく、喫茶店に行くなどして気分転換をしている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる入居者の方には、自分でお金を持ってもらい職員の見守りの下買い物をしている。		買い物の時に自分で支払いをしてもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	喫茶店や買い物などの外出レクを取り入れている。家族や親戚と一緒に買い物や温泉に出かけている。隣の公園に行ったり、そこで食事をしたりしている。		冬でも近くの喫茶店に行き、気晴らししている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	歩行困難な方には車イスを手配し、大型商業施設での買い物や食事、また水族館見学、果物狩りに外出している。車イスを利用し、家族と外出ができるようにしている。		急な家族との買い物や食事の外出にも対応している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	時間に関係なく、本人の希望に合わせ電話はできるようにしている。手紙やはがきを出したい方は職員が出している。		電話をかけられない方には、職員がかけて対応している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問しやすい雰囲気作りを心がけ、居室やDルームで本人、面会者が満足できるまで過ごしてもらうようにしている。		面会の時間帯は特に決めてなく、その方の都合に合わせている。また、居室と一緒に食事やおやつを食べていただいている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在は、拘束に当たるケアはなく、判断できない場合は確認しながらケアを行っている。毎月、会議で拘束がないか確認している。		行為だけでなく、言葉使いにも注意してケアを行っている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、夜間を通して居室に鍵をかける入居者はいない。入居者同士で気軽に訪問しあっている。玄関も鍵はかけておらず、入居者や来客者がいつでも出入りできるようにしている。		夜勤者が1名の時間帯のみ防犯のため施錠している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間でプライバシーに配慮しながら、お互いに声を掛け合い入居者の所在、行動を伝えあい把握し、安全を保つように努めている。		入居者の位置、行動だけでなく、職員も周りの職員に声を掛けてから行動している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	配置を変更したり、角をクッションなどで保護したりして、継続して使用できるように工夫している。		入居者の気持ちに配慮して、安全に継続して使用できるようにしている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各入居者に合わせた介助方法や現状を確認し、危険だと感じたことはすぐに報告し、対応策を検討している。		ヒヤリハットや事故報告だけでなく、毎日の送りで危険だと感じたことを報告し、全員で把握し話し合いをしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	内部研修で勉強したり、マニュアルを作成して全員が周知し、定期的を確認している。		入居者によっては個別の対応マニュアルを作成し、定期的に対応している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力の下、運営推進委員にも参加してもらい火災、防災の訓練をし、指導、助言をもらっている。近所の方にも災害時は協力してもらえるようお願いしている。		消防署の協力で消火訓練を行い、ホームでも独自に火災訓練を定期的に行い入居者の誘導をしている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に家族に転倒や体調面でのリスクについて説明し、体調の変化、ADLの急激な低下があれば、その都度説明している。家族も納得した上で本人の望む生活が送れるように話し合いをしている。		体調の急変時や入院時はすぐに話し合いを設けるようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化、水分の摂取量、排泄の状況、バイタルを申し送りを利用して、職員間で情報を共有している。日中だけでなく、夜間でもすぐに対応できるように主治医へ連絡をとれる体制を整えている。		すぐに様子がおかしいと感じた時は、日中、夜間に関係なく管理者に報告し、指示を仰いでいる。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時は、飲み込んだことを確認してから入居者から離れている。受診時の医師の指示や副作用の説明、薬の内容を書いた情報書を入居者個人のファイルに添付したり、連絡ノートに記載して職員全員が把握できるようにしている。		薬の処方内容に変更があった際は、歩行状態、食欲など副作用がないかしばらく観察を強化し確認している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事メニューの内容の検討をしたり、食事の摂取量、1日の水分摂取量を申し送り時に確認している。乳製品を取り入れたり、水分の摂取量が少ない方は、水分補給を促している。ラジオ体操を取り入れ、身体を動かすようにしている。		水分制限のある方以外は、十分に摂れるようにチェックしている。個人的に乳製品を取り入れるなどしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	できるだけ入居者本人に毎食後歯磨き、義歯の洗浄を行っている。自主的にしない入居者の方には、声かけをして見守りの下行っている。毎晩、義歯は洗浄剤につけて除菌にも努めている。		毎食後、口腔ケアを徹底している。入居者によっては、職員で義歯を管理し、洗浄剤につけている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べやすいように食事の形態を工夫したり、見た目でも満腹感が出ないように量の加減をしている。栄養バランスがとれたメニュー作りをしている。		その方に合わせて、きざみにしたり、ごはんではなくおかゆを提供している。体調や食欲にあわせ、提供量を加減している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員共に手洗い、うがいを徹底している。職員は出勤時には必ず、手洗い、うがいをし、入居者も外出から帰ってきた際は、手洗い、うがいをしている。ノロウイルスや感染症の勉強会に参加している。		玄関先に消毒薬を用意して、手指を消毒してもらい、洗面所でうがいをしてもらうなど面会者にも協力してもらっている。また、マスクを用意して予防に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	漂白剤を使用し、毎食後ふきまな板などの調理用具の除菌をしている。食品は新鮮なものを使用する分だけ購入している。冷蔵庫に長期間保存せず、短期間に使いきっている。冷凍庫ないの食品も定期的に期限の確認をしている。		食品が余る時は、メニューを変更して使い切っている。メニューに使用する分を記載し、買い物している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は広く、入居者の方や来客者がスムーズにまた安心して出入りができるようになっている。玄関にはセンサーがあり、入居者が一人で出ようとしてもわかるようになっている。		夏場は花を植えたプランターを置き、冬場は玄関前が凍って滑らないようにマットを敷いている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には、季節や時期に合わせた花や置物で飾り、また手作りのクッションや座布団を用意して居心地よく過ごしてもらえるように努めている。		Dルームの窓からは、明るい日差しがよく入り、景色がよく見える。正月用品や花壇の花を生けたりしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下には、籐のいすやテーブルが設置しており、入居者がそこで会話をしたり、一人でゆっくりと過ごすなど自由に使用してもらっている。		各入居者が自分に合った居心地のよい場所を見つけられるようにしている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は入居者が使いやすく、居心地がいいように家具を配置している。その方によっては、転倒の防止など安全を考えて一緒に相談しながら家具を配置している。		使いやすさ、居心地のよさだけでなく安全も考慮しながら、本人、家族と相談しながら家具を配置している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内は1日に数回換気を行い空気の入替えをしている。居室も本人に確認しながら1日に1回は換気をしている。室温は本人の感覚に合わせて設定している。		居室を訪問した際に温度や湿度を確認している。室温は何度と設定はしていない。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	ホーム内は段差がなく、バリアフリーとなっている。壁全体に手すりを設置している。動線を広く確保し、車イスでの移動に配慮している。		歩行に不安のある方には居室内にも手すりを設置するなど個別に対応している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	職員が各入居者の能力を把握して、ADLの低下の防止、現状維持を目標にして、自分でできることは自分で行えるように声かけや見守りをしている。		見守りをしながら、時間がかかってもできることはしてもらいできることを減らさないように努めている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑を作って、入居者と一緒に種まき、苗植えから収穫まで行っている。また、ベンチを用意して日光浴ができるようにしている。建物の周りは自由に散策できるようになっている。		入居者と職員と一緒に畑仕事をしたり、花に水をやっている。花壇の花を摘んで居室やDLルームに生けている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ご家族や知人の面会も多く来所しやすい雰囲気作りを心がけている。町内との交流も多く、清掃や行事に参加、またホームにも来所され入居者も楽しみにされている。